

秋田県衛生研究所報

第 2 輯

昭和 30 年 度

R E P O R T

O F T H E

A K I T A I N S T I T U T E O F P U B L I C H E A L T H

(2)



No 2

J U L Y

1955

秋田県衛生研究所

秋田市土手長町1

1 Dotonaga-Machi, Akita City,

Akita Pref, Japan,

巻頭の言葉

所長 兒玉 栄一郎

世に成功の秘訣として運、根、鈍という言葉がある。解りきつたようでいて、それでわが身になると解らないことだらけである。

この四月京都で第十四回日本医学会総会が開かれた折、二日目の夜には同窓会も催された。この度の同窓会には特別の意義があつて、昨年十一月菊花の節に文化勲章を授与された名大学長勝沼精蔵氏の祝賀を兼ねたものであつた。そのとき私は勝沼学長の御感想を間近かに聞き得たのであるが、随分と謙遜されてはいるが、しかし滋味溢れるお話は私の心を打つものがあつた。文化勲章の授与式も終り、勝沼学長を初め鍋木清方画伯、金田一京助博士、高浜虚子氏、萩原雄祐東京天文台長の5氏が次の間に降り、褒賞の感想を語り合うこととなつた。しかしこの時面白いことに全く申し合せたように、これは決して自分の功績ではなく、皆先師の指導に負うものであることを話され、真に橋花に応わしい香り高いものであつたという。金田一博士は何かの理由で先師にアイヌ語の研究でもしたらよからうと謂われ、専心その研究に従事したら橋花章ということになつたと言ひ、また虚子氏は先師子規の遺業を継ぎ、鍋木画伯も同じく先師の指導が大部分であること、萩原博士は先師平山博士の指導で太陽系の星と星との距離を測定していたに過ぎないこと、そして勝沼博士は三浦謹之助先生から血液の研究を命ぜられて鋭意没頭していたら今回の褒賞となつたことを話された。なお勝沼博士は彼のお話に付け加えて若い同窓会員であり、学徒である人々に人生「夢」無かるべからざること、そして健康に注意すること、私のようなものまで文化勲章を授与される機会にめぐり合つたというのも、私が健康であつたからで、若し健康に恵まれなかつたならばその人がどんなに立派な才能があつても、このような機運に到らなかつたと思うと結ばれた。

勝沼学長はかくも謙遜な言葉を通じて後進の誘掖に運、根、鈍他に「夢」と「健康」とを追加された訳であつた。ここで私は運、根、鈍を信じ、偶然というものにかかずらう心は何もないのであるが、世に天才と雖も「運」というものに恵まれた方がより素晴らしい成功を見るのではないかと思う次第である。

1955年3月12日のロンドン、タイムス紙はAlexander Fleming卿の死を報じ、且つ彼の業績を讃えている。またストレプトマイシンのSelman A. WaksmanはScience誌3147号に同じくFleming卿の徳を挙げて彼の死を悼んでいる。そして前者では“The Mind prepared”という標題でFlemingの倦まぬ努力をペニシリン発見の賜とし、後者では“A simple Bacteriologist”として彼の業績の人世への寄与と科学者の謙遜について述べている。更に記すならばタイムス紙は、Flemingの生涯の黄昏が名譽で燦め

いた時でも彼は彼の努力に常にチャンスということが無かつたならば成功を見なかつたろうと謙遜を強調されたことに対してタイムス紙は Pasteur の "only the mind that is prepared" という言葉を書き添えて彼を称讃している。一方また Waksman は、1874年に Roberts, 1876年に Tyndall, 1897年に Duchesne, 1925年に Gratia, その他多くの学者がペニシリウム群に属す青い黴を観ていながらこの細菌の生長を阻止し、時には細菌細胞を溶かすことさえ可能な化学物質を抽出するまでに到らなかつたという原因は殆どすべての学者に現象の意義づけという背景が缺けていたからであること、また Fleming には有能な協力者のあつたこと、また彼の伝記者が Fleming の優れた点として研究心、洞察力の深大、そして器用と忍耐とを挙げていることを肯定し、どこまでもやり通す忍耐力こそ彼を成功に導いたものであり、更にまた彼は光栄を身にまといながらも自身を "a simple bacteriologist" と謙遜したことを書いている。

すなわち Fleming の成功にはチャンスという言葉で述べられている「運」もあつたに違いないのであるが、鈍も根もあつたと思う次第であると同時に70才以上の長寿を全うした健康に想い到りたい。

次に一言述べておきたいことがある。それは今もう故人となつた Aihern Einstein と Enrico Fermi のことである。Einstein は相対性原理とか、物質のもつエネルギーとか、世界に寄与した功績が実に大きいと思うが、しかし彼は F. D. ルーズヴェルト 宛に書簡を送り、原子爆弾製造の可能なことを報じた (Gordon Dean 著 "Report on the Atom" による)。

Enrico Fermi は理論物理学の天才であつた。英国の Rutherford 卿さえ彼を目して「最も色濃い理論物理学者」と呼んだ。Fermi は世界で初せてウラニウム石墨原子炉をシカゴ郊外に建造したが、その結果は原子爆弾であつた。これら2人の人類文化への寄与は絶大であり、原爆の1個、2個は問題ではないかも知れないが、しかし原爆の製造と行使には何としても割り切れぬものを感じるのである。と同時に私は科学者の科学へ対するひたぶるな熱情を希望するが、しかし科学者としての重大な資格の1つとして人類に対する純真な「愛」の心を織り込まれることを熱望してやまない。私はここにこの「人類愛」という言葉をもう1度繰り返えし記してこの稿を終りたい。